

最優秀賞

「仲良し三兄弟」

秋田県 ^{ねもと} 根本 ^{のりふみ} 徳郁さん 小学5年生

ぼくには、弟が二人います。小学二年生の竜玄とは、野球をしたりゲームをしたりします。四才のひょう吾は、ぼくの遊びをまねします。遊びだけでなく、ぼくが悪い言葉を使うと、その言葉もまねします。床にね転がってテレビを見ていると、それもまねします。だから、ひょう吾がおこられていると、ぼくがおこられている気がします。ケンカもするけど一緒にいることがあたり前の弟達です。

ぼくのお父さんも三兄弟です。お盆におじさんたちと会うと、お父さんもおじさん達と一緒に話をして笑ったり冗談を言ったりして、楽しそうにしていました。いつもはちがう家にいるけど、お父さんとおじさん達も、ぼくたち三兄弟と同じくらい、仲良し三兄弟なんだなと思いました。

大きくなってもぼくは弟たちと三兄弟でいたいです。

審査員のコメント

●伊久美委員

仲良し三兄弟。タイトルを一目見た瞬間、幸せな気持ちになりました。しかも、お父さままで仲良し三兄弟だなんて！徳郁くん、お父さんを「まね」して、大きくなっても竜玄くん、ひょう吾くんと仲良し三兄弟でいてくださいね！

●大豆生田委員

徳郁君が自分の弟をととても愛おしく思っていることがよくわかります。そして、お父さんも同じ三兄弟で、やはり仲良し三兄弟であることと重ねてみることで、三兄弟の仲良しの未来も見えてきますね。リズム感があり、とても面白い文章です。

優秀賞

「食事の大切さ～おばあちゃんへ」

栃木県 ^{あかばね ひなの} 赤羽 陽菜さん 小学5年生

もっとおいしいものを食べたかったっておばあちゃんは言っていましたね。手術でおなかに管を作ってから、経管栄養と、ゼリーのようにやわらかいものを口から少しだけという食事。入院中のおばあちゃんが、食べる楽しみがなくなっていき、食べられなくなっていく姿はとても悲しかった。おばあちゃんもつらかったらうな。私たち家族は、看護師のお母さんを中心に、おばあちゃんを家で看護することを決めましたね。夕食の時間に家族みんなでおばあちゃん

のベットの回りに集まり、おばあちゃんを囲んで食べる食事はみんなニコニコ。毎日がすてきな時間でした。おばあちゃんの大好きなものは、私も大好きだったね。食事を口からとることは当たり前ではないことを初めて知りました。

おばあちゃんの介護から改めて、家族みんなとのかけがえのない時間を、幸せに思うことができました。天国でも、ずっと見守っていてね。大好きなおばあちゃん。

審査員のコメント

●伊久美委員

おばあちゃんまのベッドのまわりに集まるご家族の笑顔が、目に浮かぶようでした。最期までご自宅で過ごせたのですね。おばあちゃんまは、とても幸せだったと思います。家族が支え合う素晴らしさが伝わり感動しました。

●渡邊委員

「おばあちゃんまの大好きなものは私も大好き」というところが強く印象に残りました。孫の立場から介護が幸せだと思える、強い絆で結ばれた家族が目に浮かびます。温かい読後感の残る作品でした。



「ひいばあちゃん、おばあちゃん野菜大好き」

福井県 たなか いおり 田中 伊織さん 小学5年生

毎日、子どもたちが、学校に行っているあいだに、ひいばあちゃん、おばあちゃん、おいしいおいしい野菜を育ててくれて、ありがとう。私のきれいな食べ物は人参だけど、ひいばあちゃん、おばあちゃんが育てる、愛情いっぱいの人参は、食べられるよ。たまに、私も畑仕事を手伝う時があるけど、ひいばあちゃん、おばあちゃんが、「ありがとう。手伝ってくれて、あ

りがとう。」と、何回も言ってくれるとうれしいよ。本当は、私がおいしい野菜を作ってくれてありがとうと言いたいのに、と思うよ。ひいばあちゃんは、足がいたいと言うものの、畑仕事をがんばっているね。それを私が、ずっと見えています。ひいばあちゃん、おばあちゃん、おいしい野菜を作ってくれてありがとう。私は、もりもり食べたいと思うよ。

審査員のコメント

●吉田委員

ひいおばあちゃんとおばあちゃんが大好きな気持ちににじみ出ていますね。孫である自分が自分の役割を果たすことで家族のために役立っているのだという自己肯定感や、家族の中で感謝の循環が生まれているというところに感動しました。

●大豆生田委員

本当は人参が嫌いだけど、ひいばあちゃん、おばあちゃんが育てる人参は食べられるといういおりちゃん。いまでは少なくなった四世代家族の中で愛情いっぱいに育てられることがどれほど大きな感謝の気持ちをもたらすかが伝わってくる作品です。



「わたしの仕事」

富山県 つかほら さな 塚原 咲那さん 小学3年生

わたしには、大切な仕事があります。それは、おじいちゃんの薬を曜日ケースに入れることです。家族からは、「おじいちゃんの薬ざいしさん」と、よばれています。家では、ほかにもお母さんのお手つだいなどあるけれど、おじいちゃんの薬入れが一番好きな仕事です。

おじいちゃんは、三年前に心ぞうの手じゅつをうけました。のんでいる薬は、そのためです。だけど、とても元気です。いつも、虫やしよく物や魚について教えてくれたり、トランプやオセ

ロで遊んでくれます。おじいちゃんといると、とても楽しいです。大すぎです。

わたしが薬を入れてあげると、おじいちゃんは、「さな、ありがとえー。これでまた、一週間わすれんとのめるね。」

と、よろこんでくれます。

わたしは、おじいちゃんに、ずっとずっと元気でいてほしいので、これから「おじいちゃんの薬ざいしさん」という仕事をつづけようと思います。

審査員のコメント

●吉田委員

子どもは、家族の中で役割を与えられると、嬉しくて、張り切って、自己価値観が高まるのだということが、素直に感じられました。

●坂元委員

祖父と孫の間の温かい関係が伝わってくる、ほのぼのとした作品です。家族の中で役割を果たしていくことが、子供の自己肯定感を高め、幸福な気持ちをもたらしていくことを示唆する作品でもあります。



「お父さんの仕事」

福井県 刀祢 大悟さん 小学3年生

ぼくが家族で一番好きな人は、お父さんです。なぜかという、一生けんめい仕事をして、ぼくたちを育ててくれているからです。

ぼくのお父さんは、アルミを買ってもらった仕事です。なので、お客さんが「いらない。」と言ったら買ってもらえません。お父さんが、家へ帰ってきた時、ときどき元気がないのは、お客さんに「いらない。」と言われた時かなあと、ぼくは思います。

お母さんも

「お父さんは早死にしそう。」

といいます。ぼくが

「どうして。」

と聞くと、お母さんは

「お父さん、ストレスいっぱいだから。」

といいます。

ぼくは大人になったら、お父さんの手伝いをして、お父さんを助けたいです。

審査員のコメント

● 渡邊委員

普段は表に出さない家族だけの会話をのぞき見たようで、たいへん面白く読ませてもらいました。お父さんのセリフが一度も出てこないところも内緒話のような雰囲気がよく出ていて巧みです。著者には、ぜひ将来、お父さんを“助けて”あげてほしいです！

● 大豆生田委員

大好きなお父さんが仕事でうまくいかないことへの切なさ、そのお父さんを助けたいという強い思いが伝わってくる作品です。お母さんからの「早死にしてしまう」「ストレスがいっぱい」という言葉がその現実感を率直に伝えています。



「大変だけど私の大切な役目」

福井県 林 めいさん 小学6年生

私には、九月に生まれたばかりの弟がいる。弟が初めて家に来たとき、家族のおもちゃになった。みんな、順番にだっこしたり、ミルクをあげたり。でも、最近、私の四つ上の兄は、夜おそくに帰ってきて、お父さんも帰りがおそく、弟のめんどうを見るのは、私とお母さんだけになってしまった。

いつも、お母さんがミルクを作っている間は、私が弟をだっこしてなくちゃいなくて、弟が泣くと、二階にいる私をお母さんが、「めい

ちゃん、ちょっとだっこしててー。」と言って、私を呼ぶ。私が、ねようとしているときも、弟は泣き、お母さんがあやす。

お母さんが、電話で話しているとき、聞こえてしまったのだが、「いつも私が学校から帰ってくると安心する」と言っていた。私は、なんだかうれしくなった。今までいやだと思っていた、弟のめんどうを、今ではとても楽しくなった。だから、弟のめんどうを見るのは、大変だけど、私の大切な役目になった。

審査員のコメント

● 吉田委員

赤ちゃんの存在は、周囲のたくさんの人の視点を変え、優しい気持ちにさせます。年下の子を大事に思う気持ちがはぐくまれたというだけでなく、お母さんの力になれたことが嬉しいですね。めいさんの成長が楽しみです。

● 渡邊委員

弟の面倒を見るのがいやではなくなった、という体験——子育ての充実感を得るのは大人でも難しい中で、6年生にしてその成功体験を得られた著者のなんて羨ましいこと！親に褒められるのは魔法の言葉のように効くのだと、親である自分を顧みるきっかけをいただきました。